

- 予防接種制度は、公衆衛生及び感染症対策が必要とされる時代背景から、義務化及び集団接種とされた。これは、公衆衛生及び感染症対策として相当の効果は得たが、一方で、制度の具体的運用等において課題があり、B型肝炎訴訟にあるB型肝炎の感染拡大につながったと考えられる。
- 当時の厚生省において、先進知見の把握や事例報告からの分析等が十分に成されていなかった。
- 予防接種のワクチン・手技・器具取扱・これらによる感染防止策等に関する先進知見の体系的な情報収集と精査を行う体制が不十分であり、収集した情報を組織的に共有し対応することができなかったのではないか。
- 予防接種との因果関係が少しでも考えられる副反応の事例や予防接種実施時の感染の事例は、国に報告があがるようにすべきではなかったか。
- 予防接種現場での注射器の連続使用といった予防接種実施時の事故の実態把握が、各行政機関において徹底されていなかったのではないか。
- 当時の厚生省は、不正確なリスク認識等の是正が遅れたのではないか。先進知見や副反応報告等により把握した事例を整理・調査し、その結果に基づき、公開の場で予防接種制度を評価・検討する枠組が必要ではないか。
- ディスポーザブルの注射針・注射筒について、開発・普及が先進諸外国と比べて遅く、さらに、普及が進み肝炎感染の予防策としての使用が指摘されても国の予防接種への導入に向けた対応は遅かった。
- 当時の厚生省は、予防接種の安全性確保に資する取組について研究を進めて組織横断的な検討をしていたとは言い難いのではないか。

- 国からの通知発出に伴い、指導した内容が確実に担保されるためのきめ細かな取組はできていなかった。

- 市町村は、医師である保健所長や地区医師会の知見をもとに地域単位での予防接種の安全な実施を担保する役割があるが、予防接種への取組は、個々のリスク認識に依存し、その結果、地域差が生じた。
市町村は、予防接種の実施に当たって、医師である保健所長や地区医師会の専門的見地に基づいた検討・精査を行うべきではなかったか。

- 各行政機関や医療従事者が先進知見や事例を収集できる環境も十分でなく、先進知見や事例を把握しても各行政機関間での情報共有もされなかった。また、各行政機関の先進的な取組も共有されなかった。

- 医療従事者が地域の安全な予防接種の実施に積極的に取り組んできた地域もあった。
今後も医療従事者が医学の基礎教育において予防接種の効果と安全性の確保に関する知見を確実に身につける環境を整えるとともに、医療従事者の予防接種に関する実施レベルを向上する取組を充実することが望まれる。